

中間管理職対象のハラスメント研修を 2回に渡って実施しました

11月12日、19日の2回に渡って、
中間管理職を対象としたハラスメント
研修会が開催されました。



前回同様、参加型の研修会で、普段
話すことのない職員との交流の機会と
もなりました。楽しい雰囲気の中、活
発な議論が行われました。

参加者の皆様からは、以下のような
感想が寄せられています。

<印象に残った点・学んだ点>

- ・職場におけるハラスメントにより、された本人はもとよりした本人、職場と全
てにおいて大変な悪影響を及ぼす。
- ・「価値観」は時代とともに変わってい
く。20年前の指導方法は、今は通用しな
い。



<管理職として学んだ内容を明日からど
のように生かすか>

- ・日々スタッフと接する中で、アンテナ
を張って少しの気付きを大切にしてい
こうと思う。
- ・性差、年齢など関係なく、誰に対して
も一人の人間として接することを心がけ
る。
- ・自分で訴えることができない利用者さ
んもハラスメントを受けていることが
あるので、それをどう守ってあげるかが課
題です。
- ・お互いに注意しあえる職場にするため
にコミュニケーションを積極的にとり、
助言に対して耳を傾けていきたい。

今後は、一般職員の皆さんに向けた研
修会を行なっていきます。

ご協力、よろしくお願いいたします。

～コラム～

明治の文豪幸田露伴の『努力論』の中に「幸福三説」という
のがあります。福には「惜福」「分福」「植福」の3つがあり、「惜
福」とは、自分に与えられた福を取り尽くし、使い尽くしてしま
わず、天に預けておくことで、その心掛けが、また新たな福に
出会うと説いています。幸福である人を見ると多くが「惜福」
に努めている人だと露伴は述べています。

「分福」は、幸福を人に分け与えることで、周囲を幸福にす
ることが自分の幸福にもつながると説いています。

「植福」は、将来の自分や、将来に生きる人のために福の
種を蒔いておくことだと言います。将来の人のために環境を
整えておくことも「植福」のひとつかも知れません。

私たちの職場も、それぞれの福を分かち合えるような場
所に変えていきたいですね。

かわればわかる、わかればわかる。 (蒔田)